

群、来

第75号 平成31年2月28日発行

編集・発行 秋田県水産振興センター

〒010-0531

秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8-4

TEL 0185-27-3003 FAX 0185-27-3004



第38回全国豊かな海づくり大会・高知家大会で知事が大会旗を引継ぎました

平成30年10月28日(高知県高知市)

秋田県漁業の持続的発展に向けて



所長 千葉 俊成

平成も残すところ2か月、この4月には天皇皇后両陛下がご成婚から満60年を迎えられ、5月に皇太子殿下のご即位により新たな元号が始まります。今年は十二支でいうところの「亥年」ですが、正確に表すと「己亥」、次に同じ干支が来るのは60年後、実は私も還暦となることから、不思議なめぐり合わせを感じているところです。

さて、秋田県に水産試験場が設立されたのが、明治33年、その60年後の昭和35年に初めて人工ふ化させたマダイの稚魚が瀬戸内海に放流されたといわれています。県では、昭和55年に男鹿市鶴ノ崎に栽培漁業センターを設置して、マダイやヒラメ等の種苗を大量生産し放流する栽培漁業に本格的に着手する一方、昭和60年には水産試験場と栽培漁業センター、沿岸漁民研修所を統合する形で秋田県水産振興センターが設置され、ハタハタやマダラ等の資源管理対策にも取り組むなど、いわゆる「つくり育てる漁業」を漁業者のご協力のもと積極的に展開してまいりました。

本県のみならず我が国の漁業を取り巻く環境が非常に厳しい中、昨年12月に改正漁業法が成立し、今後、適切な資源管理と水産業の成長産業化の両立の実現に向けた様々な対応が求められることになります。いずれ、ハタハタも法に基づく漁獲可能量設定対象種になるものと推察しておりますが、本県のこれまでの取組を更に進化・発展させていくことで、十分に対応できるものと確信しています。

秋には「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が開催されます。本県のつくり育てる漁業の拠点となります新たな施設をフル稼働し、御放流魚のマダイとトラフグ、お手渡し魚のハタハタやアワビ等の種苗を確実に生産してまいります。どうか皆様には、今後ともよろしくお願いいたします。

●研究紹介（資源部）●

漁業情報の利用拡大による水産業の活性化に取り組めます

本県の海面漁業の特徴として、多くは日本海を広く回遊し、季節的に漁場を形成する資源であるハタハタなどを漁獲対象としていること、小規模経営体が多く日帰り操業による小ロットで不安定な鮮魚出荷が主体であることなどが挙げられます。一方で近年はハタハタ資源の低迷に加えて、多くの魚種で漁場や漁期が昔と変わってきており、これまでの感覚では効率的な操業が難しいとの声も聞かれます。漁業者や漁船隻数の減少が進む将来を見据え、これからの漁業者にとって本県水産業を魅力ある仕事にするための取組を始めましたのでご紹介します。

本県水産業を持続的な産業とするには、漁業者を始めとする業界全体の取組として、操業から販売までの作業効率と鮮度管理技術を高め、漁獲物をこれまでよりも無駄なく活発に取引する体制が必要です。県ではその要となる技術として、漁業現場への情報通信機器の導入を検討しています。現在、底びき網漁船3隻に調査機材（図1）を設置し、操業情報（船の位置、漁獲量等）を水産振興センターでリアルタイムに把握する試験を行っています。この機材は、これまでノートに手書きしていた操業記録よりも多くの情報をいつでも確認可能な方法で保存でき、水温や潮流データがあれば併せて管理できます。客観的な観測データばかりでなく、漁業者の勘や経験などの貴重なノウハウまでを確実に蓄積でき、後継者へも分かりやすく引き継ぐことができるため、変化し続ける海洋環境下での操業の効率化を支援する技術に結び付けたいと考えています。

漁獲情報を発信することで流通を活性化することも期待できます。浜仲買の皆さんは、漁獲物を競売直前に市場で確認してから電話で注文を取ることが多く、何がどれくらい水揚げされるかわからない現状では十分な売り先を確保できない場合があります。今後、水揚げ予定数量等を入港前に漁協や浜仲買に知らせることで、荷受けから競売までの作業効率を高め、少ない人手でも多くの漁獲物を素早く流通させることで収益性を高める、活発な水産物市場を目指します。

漁業資源の持続的利用を目指した漁業管理も続けなければなりません。変動が著しい水産資源の分布や量を判断する上で、漁船の操業情報は非常に重要です。センターでは変動の大きいハタハタ漁況を迅速かつ正確に把握する手段としてこのリアルタイム情報を利用しており、これまで漁業者が感覚的に捉えてきた「戸賀沖のハタハタは型が良い」といったような情報を、データとして実証することもできるようになりつつあります（図2）。

今後はより多くの漁業者にこの取組に参加していただき、集めた情報を適切に共有し活用する体制を整備することで、本県漁業を活性化したいと考えています。



図1 漁船に設置したリアルタイム情報収集のための機材

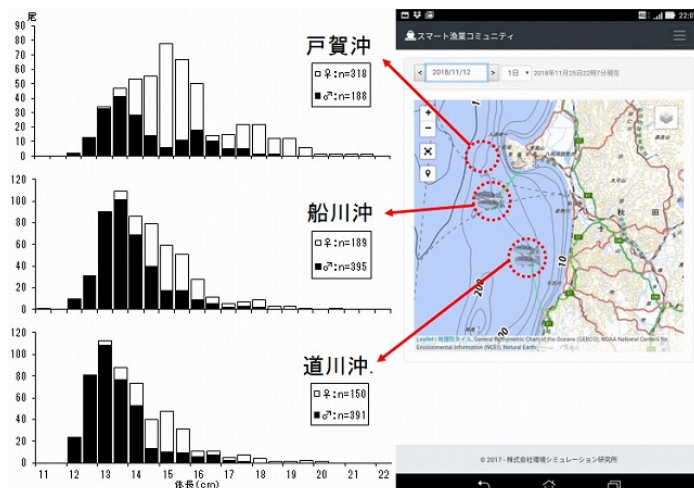


図2 平成30年11月12日の各海域でのハタハタ体長組成

●トピックス (増殖部)●

新しい栽培漁業施設の完成と今後の展開

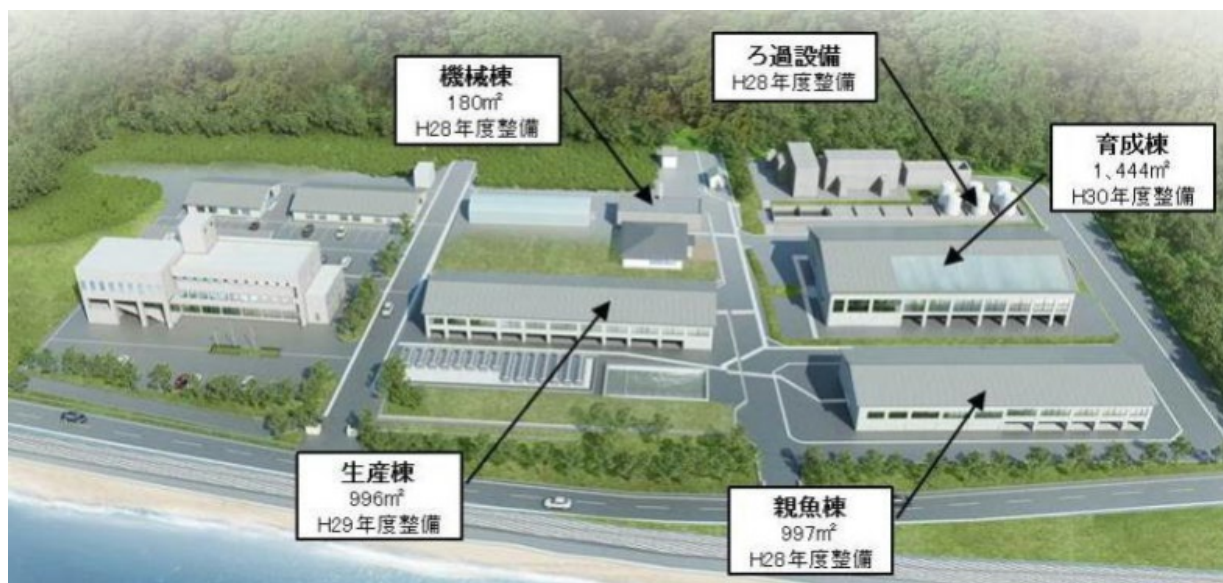


図1 新しい栽培漁業施設の完成イメージ

平成28年4月から始まった栽培漁業施設のリニューアル工事の全工程が平成31年3月で完了します(図1)。3か年を経て完成するこの施設では、最新技術である閉鎖循環システム等の導入により低コストかつ良質な稚魚の生産を目指すほか、漁業者の方々が行う蓄養殖試験などの取組にも対応します。また、小中学生をはじめとした多くの県民の方々に漁業への理解を深めていただくため見学等の安全性に配慮するなど(図2)、これまでよりも一層開かれた施設になります。

閉鎖循環システム（図3）は、これまでかけ流しとしていた飼育水を再利用することができ、加温経費が削減される最新の低コスト技術で、さらに、紫外線殺菌装置を備えたことにより、病気の侵入を防ぐことが可能となります。また、海からの取水をインバーター制御としたほか、最新のろ過設備の導入により、コスト削減が図られていて、これまでよりも効率的かつ効果的な栽培漁業の持続を目指します。

平成28年度に完成した「親魚棟」では、閉鎖循環システムによりマダイ、ヒラメ、キジハタ親魚の飼育と受精卵の採集技術がほぼ確立されたほか、稚魚の餌料となるワムシの培養もおおむね順調に進められてきました。また、平成29年度完成の「生産棟」では、マダイ、ヒラメ、トラフグ、アユ、クルマエビの種苗生産が行われ、このうちアユの一部のロットでは閉鎖循環システムを使用しました。

平成31年4月からは本県栽培漁業の核となるべくすべての設備をフル稼働させていきます。一部施設については、蓄養殖試験など漁業者の方々の自主的な取組での利用も可能ですので、水産業普及指導員を通じてご相談ください。



図2 安全な見学に対応した落下防護柵

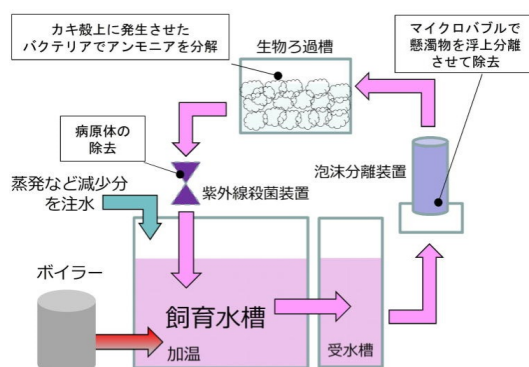


図3 低コストで良質な種苗生産を可能とする閉鎖循環システム

●普及活動報告（総務企画班）●

秋田県青年・女性漁業者交流大会 開催！

第57回秋田県青年・女性漁業者交流大会が平成31年1月22日に開催され、大会の中で5名の指導漁業士が永年に渡る漁業振興と後継者育成等の功労者として表彰されたほか、指導漁業士2名と青年漁業士2名が新たに認定されました。認定された方々は、各地区のリーダーとしての活動や後継者の指導・育成にご尽力いただくことになります。

また、第38回全国豊かな海づくり大会での農林水産大臣賞（漁場・環境保全部門）の受賞を記念した天王潜水漁業者会による「イワガキ漁場再生」、同じく環境大臣賞（資源管理型漁業部門）の受賞を記念した象潟根付委員会による「アワビ増殖」についての報告がありました。その他に、県漁協北部地区女性部ひより会による地魚料理教室についての研究活動発表や、徳島大学の浜野教授による新しい漁業を創出する取組についての講演などがありました。

○永年功労者表彰・漁業士認定された方々

表彰：齊藤幸夫さん（船川、欠席）、児玉清一さん（天王）、
鈴木 均さん（椿）、鎌田幸博さん（畠）、
池田 大さん（金浦、欠席）

指導漁業士：今井浩一さん（金浦）、鎌田勝彦さん（北浦）

青年漁業士：伊藤徳洋さん（天王）、白瀬晃彦さん（金浦）



左から児玉、鈴木、鎌田の各氏



左から今井、鎌田、伊藤、白瀬の各氏

●イベント紹介（水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室）●

『豊かな海』を考える契機に

「第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会」が、本年9月7日と8日に本県で開催されます。県立武道館で式典行事、秋田マリーナ南側埠頭で海上歓迎・放流行事、道の駅あきた港などで関連行事を行い、水産資源の保護・管理や環境保全等を訴えます。例年天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、今大会では県内外から約1,500名の招待者をお迎えし、関連行事には数万人の来場者を見込んでおります。



海上歓迎・放流行事

昨年4月に発足した推進室では、大会準備と開催の周知等に取り組んできました。昨年は「県民総合リレー放流」を県内22か所で行い、稚魚の放流を通じて大会の目的の一つでもある「つくり育てる漁業」の重要性を訴えてまいりました。また、9月に道の駅あきた港で開催した「地魚フェスティバル」は、お魚ふれあいプールや地魚バーベキュー、漁船クルーズなど体験型の催しが好評で、1万人を超える方々にご来場いただき、海への関心の高さがうかがえました。

夕陽が沈む水平線、釣り糸を垂らしてゆっくりと過ぎていく時間、新鮮な海の幸。「豊かな海」を思うとき、頭に浮かぶものは人それぞれだと思います。一人一人が、海がもたらすその大きな恵みを見つめ直し、感謝の念を抱くことが、今後の漁業振興の礎になるものと思います。

推進室では、県内外からの大勢のお客様をしっかりとおもてなしすることはもちろん、大会を通じて皆様が「豊かな海」を再認識し、次世代へとつないでゆく契機となる秋田ならではの大会を目指してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。（写真は高知大会のものです）



式典行事



関連行事